

平成 28 年度東広島市教育委員会主催・広島大学マスタース共催市民講座
「ドイツの名歌・名詩を楽しむ」実施報告

広島大学マスタース会員 岡崎忠弘

市民講座は、専門分野を平易に語るだけでなく、新しい視点が示されるべきである。これが私の持論である。

- ① 上田敏は、いかにして、ドイツ語の凡作を「山のあなた」の名詩へ創り変えたか。
- ② ヘッセのロマンティシズムは深い孤独感と表裏一体となっているのではなかろうか。
- ③ ゲーテの「のぼら」をヘルダーのそれと比べれば、捨てた乙女フリーデリケに対する文豪の苦衷をより深く理解できるのではなかろうか。
- ④ 「リリー・マルレーン」では、すでに前線で埋葬された兵士の想いが歌われているのではなかろうか。

ドイツ語の知識を有しない聴講者のために、原詩と逐語訳の手許資料 20 余枚を配布した。ドイツ語の解釈・説明が詳し過ぎると、退屈になり、簡略過ぎると、主題の伝達が覚束なくなる、塩梅がむずかしかったが、CD カセットで流したドイツ民謡の音楽が雰囲気や和らげてくれた。

